

福岡県立太宰府高等学校長

福岡県立太宰府高等学校 平成21年度 学校関係者評価表

福岡県立太宰府高等学校 学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会の評価結果を次のとおり報告します。

学校経営計画 (4月)				評価 (3月)		
学校教育目標	志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもつ、たくましい卒業生の育成を図る。 1 知・徳・体の伸長と調和のとれた、情操豊かで進取の気概に充ち国際性に富み、将来国家社会に貢献できる人材の育成を目指す。 2 すべての生徒をわが子として育てる学校を目指す。			B		
昨年度の成果と課題	年度重点目標		具体的目標			
1 成果 (1) 基礎学力の定着・向上 (2) 進路指導の充実 (3) 部活動、生徒会活動の活性化 2 課題 (1) 教科指導力の向上と授業の工夫・改善 (2) 生徒一人ひとりに応じた進路意識の早期確立と深化 (3) 家庭、地域の理解・協力のもと三者の連携のとれた教育活動	1 生徒指導に基盤を置いた教育の徹底		ア 基本的な生活態度を確立し、自己の責任を自覚し実践できる誠実な人間を育成する指導を行う。 イ 師弟同行の教育実践をとおして、生徒自らが本校に学ぶ喜びと誇りを持つ指導を行う。 ウ 生徒会の主体的な活動を促し、生徒の自主性を培い、社会の一員としての資質や態度を高める。 エ 生徒の現状を的確に把握できる校内体制の整備に努めるとともに、適切かつ迅速な対応が行える指導力の向上に努める。			
	2 基礎・基本を重視し学習意欲の向上を目指す学習指導の徹底		ア 基礎学力の定着を図り充実・向上に努力し、生徒自らが意欲を持って学習する態度を育成する。 イ 授業内容の充実に努め、不断に工夫・改善して生徒の学習理解の深化を図る。 ウ 個々の生徒の習熟の程度に応じた適切な教科指導を行う。			
3 本校教育への理解をさらに深める広報活動の充実		ア 本校の教育活動を地域・保護者・中学生に適切に公開し、かつそれらの情報を迅速・的確に発信し地域に根ざし開かれた学校としての地位の確立を図る。 イ 学校、教職員、生徒に関する情報について、その取り扱いに十分留意し、適切に管理する。				
4 生徒の更なる安全面への指導と健康の増進		ア 健康診断後の治療勧告を行い、健康管理能力の向上を目指す。 イ 安全点検、安全教育を定期的に行い、教育環境の整備や交通マナーの向上を目指す。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題		
教科指導	1 生徒の実態に応じた指導を行い、生徒の学力向上を図る	ア 考査毎に結果の分析・検討会を教科毎に設けることで、生徒の実態に応じた指導方法、授業内容の工夫・改善を行う。	A	B	生徒への学習指導については各教科とも丁寧な指導を心がけ、粘り強く行うことが出来た。習熟の差が大きい状況であるので一層の指導方法・内容の工夫・改善が必要である。 生徒による授業評価を役立たせるには、データの活用法の工夫と教師の意識を更に変えていく必要もある。 学習オリエンテーションによって導入期の指導は予定どおりに行えたが、2・3学期の節目ごとの確認をどのように入れるかが課題である。 今年度は新学習指導要領についての学びの時期であったが、次年度は具体的な教科による議論と提案の段階である。 授業環境の整備をより勧めていきたい。老朽化した机・椅子の更新も計画的にお願いしたい。	
		イ 生徒による授業評価を年間2回行い、その結果を教科別、個人別に分析することで授業改善に役立たせる。	B			
		ウ シラバス等を活用して学習オリエンテーションを行い、継続して学習習慣の確立や授業規律の定着を図る指導を行う。	A			
	2 本校の実態に応じた教育課程を編成する	ア 新学習指導要領に基づく学習指導要領の編成準備を行う。	B			B
3 授業時間の確保に努める	ア 年間を通しての授業時間の確保や授業時間の均等化を図る。授業振替措置を徹底して自習の時間をなくす。	A	A			
4 授業環境の整備に努める	ア 教材の持ち帰り指導、ロッカーの整備、教室の美化等に積極的に取り組む。	B	B			
進路指導	1 進路実績の向上を図る	ア 進路意識を高めるため、個人面談をはじめ、総合的な学習の時間・HR活動を積極的に活用する。	A	B	生徒一人ひとりの進路実現のため、課外授業や土曜セミナーを実施することにより学力の定着さらには実践力養成に努め、また高い進路目標を持たせるため、様々な進路行事を行った。しかしながら、本年度の進路指導には計画性に欠けていた部分が多く、生徒へ投げかける時期が遅れたように思われる。 次年度は、現生徒の気質や進路環境の変化を踏まえた上で、計画的な進路指導を目指したい。課外、土曜セミナー以外にも、居残り学習を奨励し、自学自習の習慣を徹底するところから始め、高い目標に向かって最後まで諦めない粘り強い精神を育成できるような取り組みを実施したい。また社会人として必要な能力育成のためキャリア教育の充実を図りたい。	
		イ 実力考査や模擬試験等の分析を行うとともに各種調査、情報をもとに3年間を見通した進路指導計画を策定する。	B			
	2 課外授業の充実を図る	ア 生徒の進路希望を把握し実態に応じて適切な課外授業を展開する。	A			B
		イ 土曜セミナー、3学年進学セミナーを効果的に実施する。	B			
	3 進路行事の充実に努める	ア 職業研究、学問研究を通じてキャリア教育の充実を図る。	B			A
		イ インターンシップ、目的意識の向上プランを実践に移し自らの生き方を考える力を高める。	A			
ウ 進路説明会等を通じて、情報提供を効果的にかつ積極的に行う。		A				
人権教育	1 人権を尊重できる生徒の育成を図る	ア HR活動を利用した人権教育授業を通して、アサーティブトレーニングなどの人権スキルを学ばせる。 イ 様々な教育活動を通して、自尊感情の育成を図る。	A	B	特設授業における参加・体験型の授業は、生徒にも好評であったが、さらに細かに評価していく必要がある。 人権教育が、特設授業の時だけになりがちである。人権教育の基本である、全領域を意識し、人権尊重の雰囲気のある学校環境作りを行っていく必要がある。	
	2 人権を尊重できる環境作りに努める	ア 挨拶がきちんとでき、安心して通える学校環境を作る。 イ 研修などを通して教員が集団としての力量を高め、生徒が安心して、自信を持って学べる環境を作る。	B			
生徒指導	1 基本的な生活習慣の確立 (自己指導能力の育成)	ア 担任・副任と連携し遅刻・欠席を0.4%以内に減少させる。	A	B	各学年の状況に応じ、共通した指導目標に従った生徒指導が実践された。また、時間や規則を守りなど、基本的な生活習慣については多くの生徒が高いレベルで習得できた。不登校生が以前に比べて少なくなった。しかし、まだまだクラス内での友人関係をうまく保つことができない生徒がいる。「学校生活アンケート調査」等の有効活用により、いじめ問題を未然に防止したい。 両校の文化祭での交流や高等盲学校のマラソン大会をお手伝いすることにより、心触れ合う素晴らしい交流をすることができた。そのことにより、他者への思いやりの大切さを知ることができた。 生徒会や交通安全委員の協力で、春と秋に「交通安全キャンペーン」を実施する頃ができた。しかし、大きな事故こそ起こらなかったが、自転車マナーが十分でないとの指摘を受けることがあった。来年度は4月当初より、生徒指導部を中心に指導体制を確立したい。	
		イ 定期的に風紀検査を行い、全職員で徹底した指導を行う。	B			
		ウ 生徒会の生徒を中心に挨拶運動を展開し、気持ち良く挨拶のできる学校づくりを目指す。	B			
	2 生徒会活動の充実	ア 積極的に各種委員会を開催し、活性化を図る。	B			A
		イ 生徒会が中心となり、体育祭・飛梅祭などの学校行事を成功させ伝統あるものにしていく。	A			
		ウ ボランティア活動を推進するため、地域社会への広報活動を図りながら近隣校との生徒交流を深める。	A			
	3 交通安全指導の徹底	ア 交通安全運動を展開することで、自分の安全を守ることや地域住民の方々に迷惑にならぬよう交通マナーを身につけさせる。	B			B
		イ 全職員による朝課外前及び下校時の交通指導を行う。	B			
		ウ 5月と10月に自転車安全点検指導を行う。	A			

自己評価に対する学校関係者評価委員会の評価	
評価 (総合)	自己評価は A 適切である B 概ね適切である C やや不適切である D 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
B	○日頃から生徒への教科指導は丁寧で粘り強く行われている。新学習指導要領に則り、一人ひとりの生徒の実態に応じた教科指導内容や方法の工夫改善がなされている。さらなる「わかる授業」に向けた取り組みを期待する。 ○PTAでも学習環境作りのため、整備活動を行ってきたところである。今後も教室等教育環境の整備や美化を進めてもらいたい。 ○高等学校での道徳教育の取組が改めて整理されることを歓迎する。道徳教育の充実に期待している。
B	○普通科普通コースに医療系進学クラスが設定されているように、生徒の進路希望の実態に応じた、より早期からの進路指導がなされるよう期待する。 ○生徒一人一人の進路希望が十分達成されるようなしつかりとした進路指導をお願いしたい。
B	○PTA活動でも、これまで携帯電話のフィルタリングについての研修会等を開催し、人権に関する研修会を行ってきた。学校は、これからも参加体験型の人権教育を進め、人権尊重の校風を築いてほしい。
A	○規範意識の低下や友人関係の希薄化など青少年の生活指導が困難になっていると言われるが、校内での指導の他、PTAや地域社会と連携した生徒指導に取り組んでもらいたい。 ○「交通安全キャンペーン」など日頃から交通ルールの遵守 (特に自転車のマナー) 並びに人命尊重の取組を続けてほしい。 ○以前に比べれば、自転車マナーは大いに改善している。校外で問題行動を起こす生徒はほとんどいなくなった。PTAの校外補導において補導対象は全くない。

	4 特別活動の充実。	ア 部活動の加入率を70%以上にする。	A	A		部活動の活性化により生徒に、学校に対する誇りと自信を持たせたい。		
保健指導	1 健康管理に対する意識の向上と危機管理の充実を図る	ア 新型インフルエンザや集団熱中症に対する対応について検討し、マニュアルの作成や職員会議での周知徹底を図る。	A	A	A	インフルエンザの今後の流行状況をふまえ、対応マニュアルの改善を図りながら引き続き速やかな対応ができるように危機管理を備えたい。来年度もさわやか委員会を定期的実施し、該当生徒の担任教師にも参加してもらいより詳細な情報に応じて対応を検討したい。健康診断については今後も効率化を図りながら生徒の健康状態をより正確かつ迅速に把握した上で治癒勧告を行っていききたい。	A	○「さわやか委員会」の定期的開催や訪問相談員の活用など、生徒の不登校・引きこもりの未然防止に向けた様々な取り組みがなされており、これからも継続してほしい。 ○新型インフルエンザの感染防止に向けた敏速な対応のおかげで罹患率が低く抑えられ、本校で拡大することがなかったのは良かった。
		イ 「さわやか委員会」を通じて心に問題を抱える生徒の掌握に努め、精神科医への相談を促すなど対応の充実を図る。	A					
		ウ 健康診断の結果については保護者への連絡を徹底し、確実に治療を行うよう呼びかける。	A					
	2 薬物乱用防止教育の充実	ア 青少年による大麻乱用問題が深刻化していることを踏まえ、薬物乱用防止教育において生徒に状況を的確に掌握させる。	A	A				
		イ 年3回の授業内容の検討を行い、充実した授業内容にすることにより、防止効果を上げる。	A					
	3 清掃活動の充実	ア 日頃の清掃活動や行事前の大掃除においては監督による指導を徹底し、清掃効果を上げるよう呼びかける。	B	B				
イ 清掃が不十分な箇所や器物の破損箇所が見受けられる場合は職員朝礼で全職員に連絡し、指導の徹底を図る。		B						
職員研修	1 教職員の力量アップに資する研修を推進し本校の課題解決を図る	ア 本校経営方針に基づく全教職員対象の企画・推進する。	A	B	B	研修が教職員の力量アップにつながるよう工夫・改善に努める。具体的には、第一に生徒指導に関する本校教職員の発表の場を設け、教育技法の充実をはかる。第二に分掌を横断した共通テーマを設定し、新たな視点での研修の場を導入する。第三に新しい学習指導要領の理解並びに実践を円滑にすすめるべく、多様な切り口で研修の機会を提供する。以上の3点を柱として、本校教育振興の一助とする。	B	○教職員の指導力向上のため、研究発表の場や研修の場を設定し、全職員一丸となった教育活動を期待する。
		イ 指導力向上のため教職員同士の相互授業参観を実施する。	B					
		ウ 「意欲を育てる授業」をテーマに全教科の研究授業を実施する。	B					
	2 学校内外の一般研修を促進し、「教育力向上」に努める	ア 10年経過研修等の校内研修プログラムを計画・推進する。	A	A				
イ 県教育センター短期研修等への積極的参加を促進する。	B							
ウ 教育実習を主管し、実のある研修とすべく指導に当たる。	A							
図書	1 図書館利用の促進。	ア 資料の収集や良書の紹介に努める。	B	B	B	生徒の実態をより深く把握して、利用しやすいように工夫すべきである。「風つうしん」で、生徒の実態把握のためにも、生徒の生の声がより多く掲載されるように工夫すべきである。読書の意義を、機会あるごとに生徒たちに知らせるべきである。「校誌」は、その年の生徒と職員に関する学校記録であるが、創立記念誌作成等の貴重な資料としての意義を踏まえるべきである。	B	○朝の読書はこれからも継続してほしい。
		イ 授業やHR活動での図書館利用を促す。	A					
	2 図書委員の育成強化と委員会活動の活性化	ア 図書委員活動の指導。	B	B				
		イ 「風つうしん」の定期的な発行により、広報活動を充実させる。	A					
3 朝の10分間読書の充実	ア 「朝の読書」実施に向けてのサポート体制の充実。	B	B					
4 校誌内容の充実	ア 研修、部活動、学校行事等の幅広い記録を目指す。	A	A					
芸術科	1 芸術科教育の充実を努める。	ア 芸術科の教育内容を充実させ、本格的指導を定着させる。	A	A	A	能力に合わせた指導を行い実績をいかに上げるのが課題である。教員一丸となって指導を行った結果、3月末現在まで福岡教育大1名、大東文化大1名、神戸芸術工科大学2名、京都造形芸術大3名、京都嵯峨芸術大1名、崇城大5名等28名中27名が内定した。次年度は国公立志望者が多いので職員一丸となり指導にあたる。	A	○芸術科は、毎年1年間の集大成として福岡県立美術館で卒業制作展はすばらしい内容だった。今後も、芸術科教育のさらなる充実と発展を期待する。 ○作品制作のため生徒の帰りが遅いことがあるので心配している。下校指導等も十分行ってほしい。
	2 希望に沿った高い目標の進路実現を目指す	ア 生徒、保護者、地域が要求する高い進路目標を実現させるため、科独自の指導体制を作り、一斉に取り組む。そのために 実技指導、公募展出品等、実績を積ませる。芸術科生全員が何らかの展覧会で入選を果たし、95パーセントを上回る入選率を目指す。多様な進路に対応する。進路実現達成率90%を目標とする。	B	A				
	3 広報活動に努め、芸術的な意欲を持った生徒を募集する	ア 芸術科教育に応える意欲ある生徒募集のため、生徒職員一丸となり本校芸術科(美術・書道)の教育内容の広報に努める。また、各地区中学生進路相談事業へ参加し、本校の芸術教育の周知徹底に努める。	A					
		イ 体験入学のみならず、中学校単位、個人単位の学校見学も積極的に受け入れ教育内容を理解してもらう。	A					
	4 国際性の涵養と情報教育を行う	ア 本校芸術科の特色作りと国際性、社会性の涵養のため、国内研修を行う。また、海外研修にも積極的に取り組む。	A	A				
		イ 国内研修にあたっては情報教育にからめた事前研修を十分に行い、実りあるものとする。	B					
英語コース	1 国際理解教育を推進し、国際人としての資質を高める。また、英語運用能力を高めるため、専門科目の内容を充実させる	ア 海外研修・サマーキャンプ・英語劇・暗唱大会・スピーチ大会・総合学習等のコース行事に積極的に取り組ませる。	A	A	B	行事の多い英語コースであるが、今年度は英語劇の取りかかりも早く、順調に進んだ。海外研修は新型インフルエンザのため実施を懸念されたが、3月に延期され無事実施の運びとなった。専門科目のシラバスもほぼ完成しており、生徒の実態に応じて授業を行っている。留学生は2年生のクラスで受け入れ、生徒たちにもよい経験となった。	A	○この地区では、英語コースは本校しかなく、英語に興味を抱く生徒にとっては魅力のある学校となっている。進路実績も確実に果たしているので、本校英語コースの成果を地域に発信してほしい。 ○かつて「総学」で日本文化学習が行われていたが、英語コースの特色ある教育活動としてとてもよい取組だったので、できれば復活してほしい。 ○芸術科、英語コースの広報については、中学校の生徒に対する広報だけでなく、小学校も含めた地域全体に対する広報を展開することが望まれる。例えば、地域とタイアップしたイベントなどを行うことで地域住民にアピールすることができるのではないかとと思われる。マスメディア活用をもっと積極的に展開することも有効である。
		イ 3年間の専門科目の内容を精選し、より効果的な教授法を模索する。	B					
		ウ 本校生徒の留学を奨励し、留学生も積極的に受け入れる。	A					
	2 希望進路実現に努める	ア 大学進学(海外も含む)、専門学校、公務員、就職と多様な希望進路を実現するため、きめ細かな進路指導を行う。	A	A				
		イ 本校在学中に留学した生徒のため、適切な進路指導を行う。	A					
	3 実用英語技能検定やTOEIC等の資格試験の受験を奨励する	ア 英語コースの生徒は、「実用英語技能検定試験」の毎回全員受験を勧める。コース全体で2級取得30名以上を目指す。	B	B				
		イ TOEICの学校受験を実施し、得点伸張を図る。	B					
	4 広報活動を活性化し、優秀な意欲ある生徒の確保に努める	ア 体験入学・英語コース授業体験・APU(立命館アジア太平洋大学)ツアー・中学生暗唱大会の充実を図り、英語コースをより理解してもらう。	A	B				
イ ホームページ上の「英語コース通信」をこまめに発行し、リアルタイムな情報を提供する。		B						
ウ 中学校訪問の回数を増やす。またFAX等を使って、中学校に英語コースの情報を流す。		B						

自己評価及び学校関係者評価委員会の評価をもとにまとめた改善策(項目を設定して、箇条書きで記入すること。)

<p>※・生徒指導を基盤として、規律と活力を併せ持つ生徒の育成に努め70%超の部活動入部率を確保し教育活動全体を通して、母校や地域への帰属意識を深め感謝の念を持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒の学力実態や進路希望を把握し、「志」を育み、指導改善を更に進めると共に、道徳教育を含めた新たな教育課題に即した教育課程の編成を行う。 ・芸術科、英語コースの高い成果を維持しつつ、それを校内全体に拡げ、地域や学区へ情報発信して本校教育活動への理解を深め、次年度志願者の確保に努める。 ・PTA、教育振興会、同窓会との連携を深め、学校評議員、関係者評価委員の助言等によって、更に地域に根付き愛される学校として校風の発揚にいつそう努める。 	<p>評価項目以外のものに関する意見</p> <p>特になし</p>
---	------------------------------------

